

紙 郵 案 起

號番

大正四年五月九日起案  
起案者 捺印

五月二十日發付  
發付掛 捺印

發付後起  
案者捺印

(提案)

艦政本部長 村登

第四部

大臣

次官

副官

大東三部

會計課

參事官

參事官

會計課

下村

田

軍務局長

秋山

局員

田

經理局長

局員

人野

田

大正四年五月二十日

大臣

軍艦臨時修理ノ件

佐鎮長官宛

五九六

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
											受月日
											發月日

政艦 4.5.10 受接

平令	小路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局、部	發付後起 案者捺印
						理 一 五 一 三			五月十日	五月十日	受月日 發月日	出塔

政艦  
4.5.10  
受接

1124 1123

本艦任務変更登録表  
後祭布ノット

軍艦出雲の修繕別紙の通時修理奉り施行  
スヘシ

但着工竣工期日豫定之報告スヘシ

右訓令ス

別紙に付添

(終)





旧青島造船所工務用機械、山東鉄道、修理船、の修理  
及陸海連絡、常々、外内地運送ノ予定、詳細、  
政本部ニ於テ調査中、為念

(終)

洋  
官

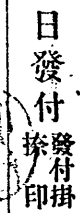
1128

起案罰紙

大正四年六月二十一日起案  
起案者 捺印



七月七日發付  
發付掛 捺印




發付後起  
案者捺印




(提案)

艦政本部長 

第四部 

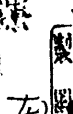
大臣 

副官 

第三部 

次官 

參事官 

會計課 

軍務局長 

局員 

經理局長 

局員 

大正四年七月七日 大臣

佐廠第一。號二三三上申軍艦最上在室強  
 圧通風機械改造及在室内重油連絡管新設

官房第一九五三號

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局、部
											受月日
											發月日

658

1129

ノ件 認許ス

入費概算

二六〇日

終

1130



六月十五

艦政本部

第三  
第四  
會計部

佐廠第一〇號ノ一二三

海軍省  
海軍大臣八代六郎

軍艦最上機関部改造及新設ノ件

新設方同艦長ヨリ別紙寫シテ通リ請求有之調査候處必要ト  
認メ候ニ付別圖ノ通リ工事施行致度候條御認許相成度  
如上申ス

參謀長

副官

政經 4.6.18

六月十九日

宣房第一九五三號

工部方案ノ實概算等類者一通  
圖面(二部)  
重量増減表  
請求書寫  
宣房第一九五三號  
海軍大臣八代六郎  
海軍省

海軍

一、鐵道最上線用部改進新設工事方策の調査  
一、鐵道の修繕用材料の改選工事

(一) 改進の調査

在東ノモノハ浦下注油装置ニシテ注油意ノ加ラズニテ全ノ充満ノ義務  
ヲ来ラスニヨリ強壓注油装置ノ改選セシマス

(二) 工事方策

(第一圖) 浦下注油装置ノ位置及運轉ノ注意ノ通リニシテ(第二圖) 浦下注油装置ノ  
所有機ヲ長クシテ油止機層直ニ設テ汽室ノ下部内ニシテ  
ニス・コーストヲ以テ連絡ス。此點ノ在東ノモノハ充満ノ義務  
中絶ヲ致ス

(三) 入費計算

ニ合ニ〇、〇〇〇、〇〇〇 (不名分)

浦下注油装置ノ改選ノ  
費用ノ概算

四) 重量増減

別表ノ通り

五) 工事日数

五十日間

二) 籠室内石油運送給管新設工事

(一) 新設ノ理由

従来該籠室内石油庫より、籠室石油庫へ及ぶ給油管は、  
 籠室石油庫へ石油を輸送するに、上層及び下層石油庫積込  
 所より、假令運送し、籠室石油庫へ及ぶ給油管は、  
 上層石油庫へ及ぶ給油管より、不便な状態に陥る場合あり、  
 籠室石油庫下層石油庫へ及ぶ給油管は、  
 籠室石油庫下層石油庫へ及ぶ給油管より、  
 又籠室外へ石油を輸送するに、  
 不便な状態に陥る場合あり、

此は仰筋ノ取入側ト形外取入管トノ連絡スル管ヲ新設スルハ前  
 記ノ理由ヨリ敷ク先連絡管ト相俟テ仰筋ヲ利用シテ重油管入  
 行ニ得ゾミナラズ一側所ノ取入ヨリ何レノ重油管ニ積込ニ得ラレ  
 敷アリ

仍テ仰筋ノ取入側ト形外取入管トノ連絡スル管新設ヲ必要トス

(三) 工事方法

第三番ニ来スル如ク内径奇ノ連絡管則チ延長ノ不意ニ成  
 此等並個ニ必要ナル接続片ニ個及余並個ヲ新設シ既設ノ管

兼テ個ニ異ナラズ

(四) 入費概算

一 金五八〇〇〇〇

内 材料費 二〇〇〇〇〇  
 労務費 三〇〇〇〇〇  
 諸費 八〇〇〇〇

(五) 重量増減





			中継室 回転数 工号 5129 日号 2056
			通風圧力 $\frac{2.0}{64}$
			後継室 回転数 工号 5456 日号 1330
			通風圧力 $\frac{1.1}{8}$
一六	重油吸入、吐出管	一	現在ノ管装置置ニテハ細ノ重油管ヨリ外ニ重油ヲ横ニ入ル能ハズ又前記重油ノノリノ油ヲ移送スルニ上田校ニ設ケテ道ヲカケル可ラス取治中屋々等アル油ノ移送ニハ中屋ヲ要スルニト大ニシテ不便ナキカヲナルニ付場ノヤ新管ヲ設ケレバ之等ノ作業ハ容易ニ進行シ得ルニ付新管ヲ要ス

1137

杉名  
和路自出

起案紙第一號

大正二年九月

提案

艦政本部長

大臣

次官



參事官

副官

會計課長

第三部長

部員

起案 提案 押

九月二十日發行

事務局接受

大正二年九月三十日

海軍大臣

横濱 鎮守使 友房

本号及所出之号 他件 数 旺 用 水 雷 防 禦 網

發送 番號 官房 第二六二七號

經理局長



局員



軍務局長



局員



1138





供覽

農政本部

經理局

軍務局

佐鎮機密第一〇八號

大正四年五月十九日

佐世保鎮守府司令長官 藤井 較

海軍大臣 八枝六郎殿

長官印

佐世保鎮守府司令

第三部

軍艦霧島推進器修理費豫算件

正四年三月三日附官房核密第二七〇號ヲ以テ訓令

要之ニ豫算左記ノ通ニ有之候條

右ノ如ク

一 豫算金貳千五百四拾圓四拾錢 (概明部所掌)

工費 六百圓

内譯 材料費 千五百四拾圓

四 12

五月廿四日

海軍省接受

（附屬費） 六百四拾貳圓四拾錢

一 豫算金千七百九拾八圓 （船体部所掌）

工費 六百五拾圓

内譯 材料費 千貳百圓

附屬費 貳百四拾八圓

（續）



起案野紙

大正四年六月九日 起案者 捺印

六月九日 發付 捺印

發付後起案者捺印

(檢案)

海軍大臣 村松

第三部長 福田

部員

大臣

次官

副官 參事官

第四部長

計課長

經理局長 勝

司員

久野

軍務局長 秋山

局員

局部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	教育	臨建	水路	軍令
受月日	受月日	受月日	受月日	受月日	受月日	受月日	受月日	受月日	受月日	受月日	受月日
發月日	發月日	發月日	發月日	發月日	發月日	發月日	發月日	發月日	發月日	發月日	發月日

大正四年六月九日 海軍大臣  
 臨建支第26号 建築工事用雜船修理ノ修理工  
 場、依托ノ件認許ス (終)

號番

一七五二號二



部長

工務監

部員

工務員

五月廿八日

總支隊第六一號

大正四年五月二十四日

六月一日進達

臨時海軍建築部支部長山口九十郎

海軍大臣八代六郎殿

第三  
第四部

會計課

工事 依託之件

鎮海軍港第一期設備費建築費雜工事浚  
渫ニ使用左記船舶修理ヲ要シ候ニ就テ、本年度  
配付豫算浚渫費ノ内ヲ以テ鎮海防備隊修理  
工場へ該修理方依託致度候間御認許相成度  
右上申入

第七五號  
浚渫船外三廣

内譯

後深船修理

工事費豫算四、一九。<sub>円</sub>四五。

小蒸汽船種ヶ島丸

工事費豫算 四五八。<sub>円</sub>一七。

小蒸汽船御崎丸

工事費豫算 三〇。<sub>円</sub>五五。

小蒸汽船葛島丸

工事費豫算 三七五。<sub>円</sub>〇〇。

合計

五三三四。<sub>円</sub>一七。

終



紙 野 案 起

大正四年八月十二日起案  
 起案者 捺印  
 八月二十五日發付  
 發付掛 捺印  
 發付後起 捺印

(提案) 艦政本部長 林 義

大臣

次官 齋 藤 實

副官 齋 藤 實

第三部 第一課 齋 藤 實

第四部 齋 藤 實

軍務局長 秋 山 實

秋 山 實

局員 吉 川 實

經理局長 勝 野 實

勝 野 實

局員 野 實

局員 野 實

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
						理 局 23			大 正 四 年 八 月 廿 五 日		受 月 日 發 月 日

大正四年八月二十五日 大臣  
 吳鎮第三二七號、三上申驅逐艦印水無月  
 長月菊月復旧修理著作件認許ス

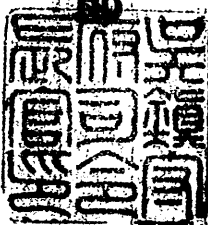
號番 第一六一二號



吳鎮第三二七號ノ三

大正四年八月四日

吳鎮守府司令長官 吉松茂太郎



海軍大臣代六郎

艦政本部

本年二月十七日付第百四十八五號ヲ以テ訓令

第三師團艦艇修理工事左記豫定期日ノ通

第一師團艦艇修理工事御認許相成テ

會計課 上申

大正四年九月一日  
五年一月三日

軍務局

官房第二六一號

海軍

1149



起案野紙

大正四年九月七日起案  
起案者 捺印

九月十五日發付  
發付掛 捺印

發付後起  
案者捺印

(提案)

續政本部長村松

第四部

大

次官 齋藤

參事官

副官

下村會計課

第一、二、三部

英三課

四課

八課

軍務局長

秋山

局長

經理局長 勝

局長

軍令部長

次長

第二班

第三班

備

手書

榮佳

大正四年九月十五日 大臣

佐鎮長官

電報

案

九月五日

號番

客年十二月八日並本年一月十二日付電報

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
九月十四日						4.9.13			軍務局長後受	九月十四日	發月日

9.10 一部發

4.9.10 一部發

99

1150 9.10

ニ依リ其月島へ派中官セル職工ハ浮船渠未修  
理ニ必要ナル者ノ外順次内地ニ帰還セシム可シ  
右訓令ス

(終)

(72)

紙 野 案 起

大正四年九月二十八日起案  
捺案者印

卯塚本

十月七日發付  
捺發付掛印

政艦 4.9.29 受轉

發付後起  
案者捺印

卯塚本

(提案)

艦政本部長村松

第四部

卯塚本

卯塚本

卯塚本

大臣

次官

卯塚本

參事官

副官

卯塚本

會計課

軍務局長

卯塚本

局員

卯塚本

卯塚本

經理局長

勝

職員

久野

卯塚本

卯塚本

局部	受月日	發月日
官房	十月六日	
軍務	十月九日	十月九日
人事	十月十日	
醫務		
經理	十月五日	十月六日
司法		
艦政		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

大正四年十月七日

十月七日附決裁濟

第十七驅隊、役務、都合上大正五年

番 艦政機第三〇八四號 中標橋

艦政機第三〇八四號

1152

度、於テ復舊而修理ヲ施行スルヲ要シ候処右  
 工事ニ対シテハ豫算上並ニ材料準備上ノ都  
 合、依リ本年三月官房第六六五號訓令  
 依リ二等驅逐艦用豫備材料ヲ充當使  
 用<sup>セシムル</sup>可<sup>キ</sup>然<sup>レ</sup>哉

右仰高裁

(終)

(60)

起案 罰 紙

大正四年十月五日起案

起案者 陸軍部

十月十三日發付

發付係 陸軍部

大 陸軍部

艦政部長

次官

參事官

副官

技術部部長

軍務局長

經理局長

第五部

第四部

局長

局長

陸軍部

海軍部

陸軍部

海軍部

陸軍部

軍令	水路	臨建	教育	鑑政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
											十月十日
											發月日

大正四年十月十三日

大臣

吳鎮長官官札

第六驅逐隊復旧修理ノ件

本年四月官房第一二七五號訓令付屬豫算

號番

官房第一二七五號

艦政機第一四四號



ラ別紙ノ通知

但シ修理ニ要スル諸官長ハ本年三月官房第<sup>モ</sup>七九

號ノニヲ以テ佐世保鎮守府ヨリ保官長轉換セル

事ヲ使用スル儀ト心得トシ

右別紙ノ如ク

別紙ノ業添

予善書

備考

材料準備ノ都合上官房才七九ノ郷ノニヲ以テ佐世保

ヨリ保官長轉換セル諸官長ヲ使用セシムル事スルニヨリ官房

才二六七七郷正官長準備訓令五七、五〇〇用<sup>ハ</sup>工本費不

用見込額七五〇〇田計六五〇〇〇田ヲ控除スル用<sup>ハ</sup>也

ニ據ル

(終)

海軍

軍備補充費造船及修理費  
艦艇復旧修理費

艦	名	事	項	額	支出年度
驅逐艦	初春	初雪	定管取換水トロ改造	一五五,〇〇〇.〇〇	四年度
驅逐艦	初春	初雪	検査艦作部修理	三〇,〇〇〇.〇〇	五年度
				一五五,〇〇〇.〇〇	

(植木)

起案郵紙

大正四年十月 日起案 起案者 捺印

十月二日 日發付 發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

大正 (提案) 艦政部長 (中)

次官 (副官) 參事官

技術本部長 第四部 局長 經理 局長

經理局長 局長 第四部 局長 經理 局長

大正四年十月二日 海軍大臣

艦政部長 吳鎮司 局長

番號 艦政第一三四七號

艦政第一五九號

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局、部
						10月10日			十月廿日	十月二日	受月日
									十月廿日		發月日

運送船膠州入渠上船底復旧修理施行せしり  
費餘算金七千六百五拾七圓臨時軍費支弁別  
途配付人  
右訓令云々  
(統)

訓令



冥工第四號 〇一六九

大正四年十月十九日

中津海軍施設部長

膠州修理廠閉鎖事件

何等官房第五番西雜三割合基今膠州修理廠  
 之目下網床中有之此知今船廠修理長長邊  
 航上米者若此以浸水甚多幸者ノ屋敷ノ向ノ  
 排水機故障生じ此等ノ保固上ノ危  
 除ノ虞有之其付手致之請ニテ此  
 有之此等ノ保固上ノ危  
 艦政船第 五九號

船政  
 4.10.22  
 政艦  
 4.10.22  
 受接

1159

の修理之者年セシノ年ハ適宜ノ處至ニシテ而カモ  
状乃彌上ニモ修治アル年上流ノ片ニ付テ橋梁功彌  
セシクシテ右ノ河運クニシテ右ニ要スル材料他ニ事ハ  
用スルモノヲ轉用シ得ル見込付テ市給議ハ上中全  
之ハハ訓令方市現處ヲ始メ

大 宛 金

追テ在件<sup>以</sup>安ノ欄橋ト被テ修理ノ都合有之ハ  
何分ノ至急而固<sup>ニ</sup>修治スル中係リ

大 宛 金

膠州松底<sup>以</sup>修理費<sup>ハ</sup>徵集<sup>ハ</sup>入<sup>ル</sup>事<sup>ト</sup>合<sup>ス</sup>

材料費 四千四百餘金<sup>ト</sup>未<sup>ダ</sup>決<sup>ス</sup>





紙野案起

大正四年八月六日起案  
起案者 捺印

八月二十七日發付  
發付掛 捺印

發付後起  
案者捺印

提議

艦政本部長 村整

副官

大 次官

參事官

第三部長 田中

第四部長 田中

第五部長 田中

部員

經理局長

勝

軍務局長

秋山

局員

職員

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
						理 21			長 21	八月廿一日	受月日發月日

1162

4.8

山

山

大正四年八月廿七日

海軍大臣

其府工廠

青島

香松

運送

號番

...

...

...



但し工部省の方針を以て行政本部長に直接工廠  
 等と連絡せしめ又入費の臨時軍事費の支弁とし豫算金  
 控に對し範圍内を完済せしむ  
参考の事あり  
 在訓令云々  
 (統)

紙 野 案 起

大正四年十月三十日起案  
起案者 捺印

宋盛

十一月二十一日發付  
發付掛 捺印

水

發付後起  
案者捺印

局 部

受月日 發月日

提案

艦政部長 中野

部員

中野

半島

水

水

水

水

水

水

大臣

次官 齋藤

參事官

副官 水

水

水

水

水

水

水

水

水

水

水

水

水

技術本部長 濟

第五部 副官

水

水

水

水

水

水

水

水

水

軍務局長 濟

局員 齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

經理局長 齋藤

局員 齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

齋藤

大正四年十一月二十三日 大臣

橫鎮司令長官 札

軍艦復旧修理件

艦政機第五八號

艦政機第五八號

號番 三五九六號

機 船 會 兵

4.11.4

4.11.4 連天

其ノ府工廠ヲシテ別紙豫算書ニ依リ軍艦八雲  
機関部修理ヲ施行セシムベシ

但シ本年一月官房第五ノ號訓令ノ準備材料  
ヲ使用スル儀ト心得ベシ

右訓令ス

別紙豫算書ニ係ル添

終

理由

軍艦八雲正収熱管及コジヤンクシヨシボックスハ此際  
全部取換ノ必要ヲ認メタルニ依ル

海軍

軍備補充費造船兵及修理費

造船及修理費

艦

軍艦八雲

名 十車

項 総

額

四  
十  
五  
十  
千  
圓

主軸機管及排煙函全部取  
換機部検査修理

八〇、〇〇〇

三〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

竣工年月日 大正五年七月中

一  
八  
七  
一

船政司

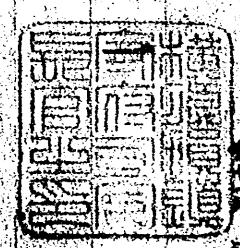
供覽

横濱第二〇の號

大正四年十一月四日

横須賀鎮守府司令長官 藤井 毅

海軍大臣 加藤友三郎 殿



艦政部

船令

軍務局

經理局

艦政船第 八七號

軍艦相模、修理工事ヲ、私工工場。

本件、局野、スル、別紙、横須賀、海軍工廠長上

申、對、本日、之、ヲ、認、許、セ、リ

右、報告、ス、別紙、寫、二、業、係、件、

局員 大野

大野

大野

大野

寫

横廠第四號ノ一二〇

大正四年十一月一日

横須賀海軍工廠長黒井悌次郎  
横須賀鎮守府司令長官藤井較一殿

軍艦相模ノケプスタン修理工事ヲ

私立造船所ニ委託ノ件

本件別紙ノ通リ公艦長ノ電報請求ニ對シ之カ修

理ヲ神ノ川崎造船所ニ委託致度付却認

許相成度

右申上ス

(別紙一葉添)

終

横鎮第三〇一〇號

海

軍



電報譯文

大正四年十月三十日

相模艦長

横須賀海軍工廠長宛

「ケプスタン」心棒制動装置螺子部折損揚錨不  
可能ナリ川崎造船所ニ修理委託方至急取計  
ラ乞フ

海

軍

1169

艦修理



横鎮第二〇一五號ノ三

大正四年十一月五日

横須賀鎮守府司令長官 藤井 毅

海軍大臣 加藤友三郎 殿

艦政部



軍務局

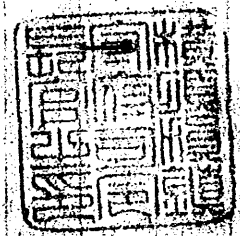
右報

別紙寫式兼添舟

本件、白露航機及夕暮艦橋修理工事ヲ私立  
造船所ニ委託、件  
別紙寫シ、通横須賀海軍工廠長  
ニ對シ、認許致候

艦政船第九四號

海軍







横廠第四號、三三

大正四年十月二日

横須賀鎮守府司令長官藤井較一殿  
横須賀海軍工廠長黒井悌次郎

白露艦機及夕暮艦橋修理工事ヲ

私立造船所へ委託ノ件

本件別紙ノ通り第三駆逐隊司令電報請求  
。對シ之カ修理ヲ神戸川崎造船所へ委託致

度ニ付御認許相成度

右申上

(別紙一葉添)

終

海

軍



大正四年十月三十一日  
 第三驅逐隊司令  
 工廠長宛

電文譯  
 白露能機夕暮艦橋大演習中破損セシ為  
 至急修理ヲ要ス當地造船所ニ委託修理  
 致シ波御配慮ヲ乞フ委細文

(終)

海軍

船修理

供覽

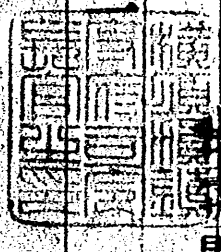
艦政部

横鎮第二〇三號ノ三

大正四年十一月六日

横須賀鎮守府司令長官 藤井 毅

海軍大臣加藤友三郎 啟



横須賀鎮守府

官房



軍務局

本件ニ関シ別紙寫ノ通

別紙三景添

本件ニ関シ別紙寫ノ通横須賀海軍工廠長ニ申

驅逐艦櫻橘通船カモ止修理ヲ私立造船所

艦政船第

九之號

海

軍